

第 39 回 木津川上流河川環境研究会 議事概要

【開催概要】

開催日時：令和 6 年 3 月 22 日（金曜日）9:30～11:50

開催場所：京都テルサ 第 3 セミナー室、および WEB 参加 (Zoom) 併用

【出席者】

委員：会場 3 名（角座長、海老瀬委員、堀委員）

WEB 4 名（平山委員、藤村委員、松井委員、森委員）

欠席 1 名（竹林委員）

事務局：会場 木津川上流河川事務所 5 名（吉田事務所長、矢間副所長、出口流域治水課長、中田流域調整係長、渡邊係員）

WEB 木津川上流河川事務所 2 名（岡田建設専門官、上田工務課長）

事務局オブザーバー：会場 水資源機構 木津川ダム総合管理所 3 名（杉浦所長、梶谷調整課長兼管理課長、飯島主査）

水資源機構 高山ダム管理所 1 名（吉田所長）

水資源機構 布目ダム管理所 1 名（久保田所長）

【議事次第】

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事

(1) 前回 第 38 回研究会および各ワーキングでの指摘対応の確認

(2) 堰・魚道 連続性再生検討について

- ・木津川上流縦断連続性再生検討：今年度の調査検討結果と今後の取り組み方針(案)
- ・コクチバス対策検討：今年度の調査検討結果と今後の取り組み方針(案)
- ・上野遊水地横断連続性再生検討：今年度の調査検討結果と今後の取り組み方針(案)

(3) 河道内樹林管理検討について

- ・今年度の調査検討結果と今後の取り組み方針(案)

(4) 水量・水質検討について

- ・水量・水質に関する報告

(5) 土砂管理検討について

- ・木津川・名張川における土砂管理に関する取り組みについて
- ・木津川上流ダム群の土砂管理方針における令和 5 年度の進捗状況について

4. 閉会

【配付資料】

- ◆議事次第 / 出席者名簿 / 木津川上流河川環境研究会 設立趣意・規約
- ◆資料 1 : 第 38 回木津川上流河川環境研究会等 指摘対応
- ◆資料 2-1 : 木津川上流 縦断連続性再生検討資料
- ◆資料 2-2 : 木津川上流 コクチバス対策検討資料
- ◆資料 2-3 : 上野遊水地 横断連続性再生検討資料
- ◆資料 3 : 河道内樹林管理検討資料
- ◆資料 4 : 水量・水質に関する報告
- ◆資料 5-1 : 木津川・名張川における土砂管理に関する取り組み
- ◆資料 5-2 : 木津川上流ダム群の土砂管理方針における令和 5 年度の進捗状況

【審議内容】

(1) 前回 第 38 回研究会および各ワーキングでの指摘対応の確認

事務局より、前回 第 38 回研究会および各ワーキングでの指摘対応について説明を行った。

- ・委員からの指摘への対応方針については、具体的な内容を記載していただきたい。(森委員)

(2-1) 木津川上流 縦断連続性再生検討について

事務局より、木津川上流 縦断連続性再生に関する今年度の調査・検討結果と次年度以降の検討内容について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・縦断連続性再生について、施設管理者等と協議を通じ良好な関係を築けていることは評価できる。(松井委員)
- ・大河原発電所取水堰と相楽発電所取水堰における魚道の通年運用については、運用時期や必要な水量について科学的な根拠に基づく議論が必要である。(角座長)

⇒ご指摘を踏まえながら、施設管理者等との協議は今後も進めていく。(事務局)

(2-2) コクチバス対策に関する調査検討について

事務局より、コクチバス対策に関する今年度の調査・検討結果と次年度以降の検討内容について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・繁殖ポテンシャルマップで産卵場としてのポテンシャルが高くなった箇所がみられたが、これは個体数の増加によるものか、精度の向上によるものか。(森委員)

⇒本年度の調査結果を加えることにより、精度が向上したものである。コクチバスの個体数は、昨年から大きく変化していないが、5年ほど前と比べると増えた印象である。(事務局)

- ・駆除イベントの場などでコクチバスの情報を入手することは重要である。(森委員)
- ・岐阜県では、「岐阜県コクチバス駆除対策推進協議会」を立ち上げているため、情報交換も行うとよい。(森委員)
- ・駆除に釣りがある論文も発表されており、参考にするとよい。(森委員)
- ・木津川上流ではアユの保全が大きなテーマであるが、アユの増減はコクチバスによる捕食のほか、カワウによる捕食や河床材料との関係も重要である。アユの産卵床とコクチバスの産卵床の関連についても、今後注視する必要がある。(森委員)

(2-3) 上野遊水地 横断連続性再生検討について

事務局より、上野遊水地 横断連続性再生に関する今年度の調査・検討結果と次年度以降の検討内容について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・新居遊水地で協力者と連携し、簡易魚道と水田魚道を設置できたことは、大きな進展である。〈松井委員〉

- ・調査結果から、魚道設置の効果はあると理解してよいか。〈森委員〉

⇒魚道の設置後に魚類の個体数が増えたことは、魚道設置の効果であると考えられる。ただし、降雨に伴い上流の水路から進入してきた個体も含まれる可能性がある。〈事務局〉

- ・小田遊水地の魚道は、以前より塵芥がたまりやすいといった課題があったが、今年度はどのような状況であったか。〈森委員〉

⇒定期的に塵芥の撤去等の管理を行っている。〈事務局〉

- ・留い川の簡易魚道をナマズが大量に遡上したことは評価できる。簡易魚道は出水に耐えられる構造なのか。〈森委員〉

⇒水門上流側のネット詰め土嚢の魚道は、多少の出水では移動しない量の土嚢を使用した。水門下流側の石積み魚道は、出水時に一部が破損したが、NPOの方々が自主的に修復していただいた。〈事務局〉

(3) 河道内樹林管理検討について

事務局より、河道内樹林管理に関する今年度の調査・検討結果と次年度以降の検討内容について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・バイオマス発電の運搬費が高くなる要因は何か。また、ストックヤードの使用により運搬費を軽減できるか。〈藤村委員〉

⇒発電所が遠隔地にあるために運搬費が高くなっている。ストックヤードを使用しても運搬費は変わらないが、発電所への搬出量の平準化を図ることは可能になると考えられる。〈事務局〉

- ・発生元と受け入れ先をどのようにつなげていくかが重要であるため、平準化について検討していただきたい。〈角座長〉

- ・重量と嵩のどちらが運搬費用に関連するかを踏まえ、費用低減について検討していただきたい。〈角座長〉

- ・令和6年度に発電所で伐採竹を100t受入予定ということであるが、量的に目途が立っているのか。〈平山委員〉

⇒発電所と調整中である。〈事務局〉

- ・メダケの生長に気象条件や日照も影響するのであれば、伐採試験の評価のために、過年度の状況を把握しておくといよい。〈藤村委員〉

⇒気象条件と日照のデータを整理し、報告させていただく。〈事務局〉

- ・2年連続伐採、3年連続伐採の試験区ではメダケの抑制効果がみられているようであるが、回復状況や今後の見通しはいかがか。〈平山委員〉

⇒2年連続伐採、3年連続伐採の試験区では、目立った回復はみられておらず、当面は現状が維持されると考えられる。なお、1年伐採の試験区は、伐採前に戻った状態である。〈事務局〉

(4) 水量・水質検討について

事務局より、水量・水質について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・大腸菌群数を流下方向に整理し、汚濁源について考察していただきたい。また、改善について、行政との意見交換も検討していただきたい。〈海老瀬委員〉
- ・水質は水量にも影響される。渇水年と豊水年で項目ごとの変化にも注目し、考察していただきたい。〈海老瀬委員〉
- ・水温は水稻の生育や魚類の生息にも関係するため、水温の変化も整理するとよい。〈堀委員〉

⇒これらのご指摘を踏まえてデータを整理し、相談させていただきながら検討を進める。
〈事務局〉

(5) 土砂管理について

事務局より、木津川・名張川における土砂管理に関する取り組み、及び事務局オブザーバーより、木津川上流ダム群における土砂管理の取り組みについて説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・アユの採餌環境・産卵環境やコクチバスの産卵環境と、土砂還元を関連付けて検討する際には、場所と時期を考慮していただきたい。〈松井委員〉

(6) その他

- ・各ワーキングでの検討項目間の関係について整理する必要がある。また、河川環境研究会は、各ワーキングにおける検討結果を組み合わせ、総合的に議論する場として位置付けるとよい。〈森委員〉〈角座長〉

以 上